



歴史

京都大学の理念、組織、制度といま

「歴史」コーナー(東側)では、京都大学の現在に至る組織や制度、理念などを紹介しました。自由の学風として語られることの多い京都大学ですが、たとえば基本理念が公式見解として定められたのはいつか、京都大学にはどんな講座がそろっていて何を学べるのか、これら膨大な学問分野を抱える大学をどのような組織としてこれまで維持、拡張してきたのか、京都大学という大きな学び場を成立させている組織、制度的な側面を紹介

しました。また京都以外にも日本全国に広がる日本でもっとも多い附置研究所、施設を抱える京都大学固有の研究ネットワークの数々、世界に開かれた数々の教育研究拠点など、京都大学という学び場の現在地をうかがい知ることができます。

京都大学の基本理念

自由“の”学風の由来

京都大学では、平成13(2001)年12月4日に基本理念を定めている。平成3(1991)年7月に大学設置基準の一部改正が行われ、各大学が多様な社会のニーズに応え、個性を活かしたカリキュラム編成などを設定できることとなり、同時期に大学の自己点検・評価が努力義務化された(平成11年より義務化)。これにより各大学は「教育研究水準の向上や活性化に努めるとともに、その社会的責任を果たしていくため、その理念・目標に照らして自らの教育研究活動等の状況について自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善する点など自己評価を行うこと」とされたため、京都大学においても、創立以来築いてきた学風を現代的な文脈で検証し、基本理念を自ら明文化する必要が感じたと考えられる。

基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理料系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

(平成13年12月4日制定)

京都大学の基本理念

自由“の”学風の由来

京都大学では、平成13(2001)年12月4日に基本理念を定めている。平成3(1991)年7月に大学設置基準の一部改正が行われ、各大学が多様な社会のニーズに応え、個性を活かしたカリキュラム編成などを設定できることとなり、同時期に大学の自己点検・評価が努力義務化された(平成11年より義務化)。これにより各大学は「教育研究水準の向上や活性化に努めるとともに、その社会的責任を果たしていくため、その理念・目標に照らして自らの教育研究活動等の状況について自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善する点など自己評価を行うこと」とされたため、京都大学においても、創立以来築いてきた学風を現代的な文脈で検証し、基本理念を自ら明文化する必要が起ったと考えられる。

基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理料系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

(平成13年12月4日制定)

H1 京都大学自己点検・評価報告書1994

平成6(1994)年度 発行
京都大学大学図書館 提供

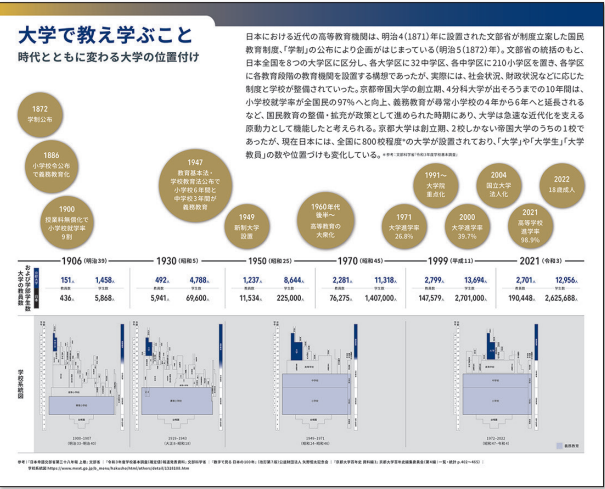
自己点検・評価は、大学設置基準で平成3年から努力義務化、平成11年から義務化されたが、本書は京都大学で初めての報告書で、自らの刊行物に「自由の学風」と記した初期の例と考えられる。なお平成16年度から現在は学校教育法において国公立立を含む全ての大学に自己点検、自己評価の実施が規定されている。

参考文献など

[1] 平成12年度自己点検評価報告書II「自由の学風を検証する」, 2000

<https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/embed/jaaboutevaluationselfdocumentsh12.pdf>



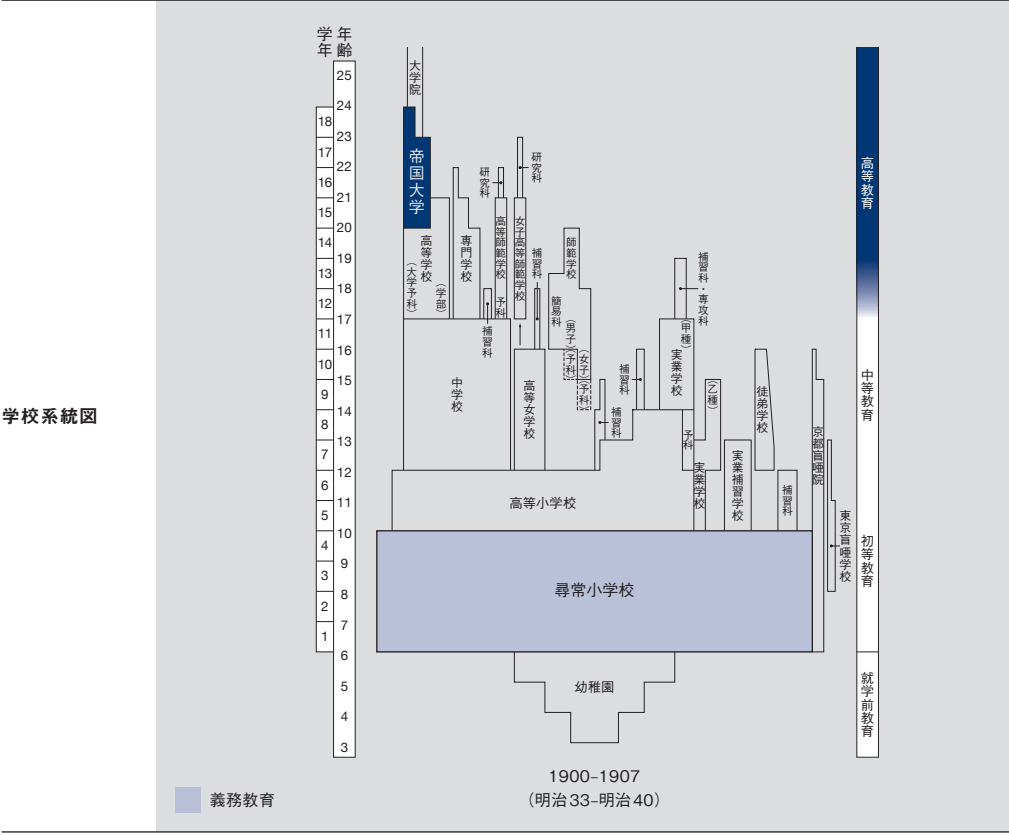


大学で教えること

時代とともに変わる大学の位置付け

日本における近代の高等教育機関は、明治4(1871)年に設置された文部省が制度立案した国民教育制度、「学制」の公布により企画がはじまっている(明治5(1872)年)。文部省の統括のもと、日本全国を8つの大学区に区分し、各大学区に32中学区、各中学区に210小学区を置き、各学区に各教育段階の教育機関を設置する構想であったが、実際には、社会状況、財政状況などに応じた制度と学校が整備されていった。京都帝国大学の創立期、4分科大学が出そろうまでの10年間は、小学校就学率が全国民の97%へと向上、義務教育が尋常小学校の4年から6年へと延長されるなど、国民教育の整備・拡充が政策として進められた時期にあり、大学は急速な近代化を支える原動力として機能したと考えられる。京都大学は創立期、2校しかない帝国大学のうちの1校であったが、現在日本には、全国に800校程度*の大学が設置されており、「大学」や「大学生」「大学教員」の数や位置づけも変化している。*参考:文部科学省「令和3年度学校基本調査」

参考:「日本帝国文部省第三十八年報 上巻」文部省 | 「令和3年度学校基本調査(確定値)報道発表資料」文部科学省 | 「数字で見る日本の100年」(改訂第7版)公益財団法人 矢野恒太記念会 | 「京都大学百年史 資料編3」京都大学百年史編集委員会(第4編:一覧・統計 p.402~465) | 学校系統図 https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318188.htm



1947
教育基本法・
学校教育法公布で
小学校6年間と
中学校3年間の
義務教育

1949
新制大学
設置

1960年代
後半～
高等教育の
大衆化

1971
大学進学率
26.8%

1991～
大学院
重点化

2000
大学進学率
39.7%

2021
高等学校
進学率
98.9%

2004
国立大学
法人化

2022
18歳成人

1930 (昭和5)

1950 (昭和25)

1970 (昭和45)

1999 (平成11)

2021 (令和3)

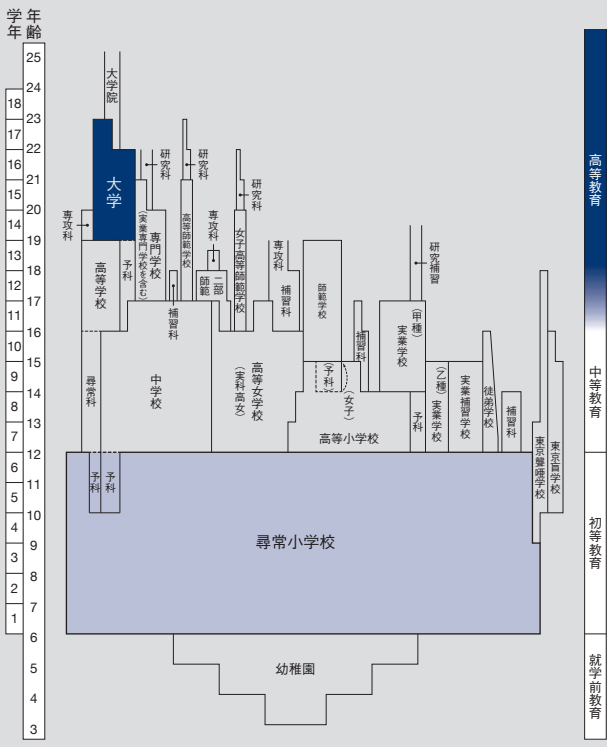
492人 4,788人
教員数 学生数
5,941人 69,600人

1,237人 8,644人
教員数 学生数
11,534人 225,000人

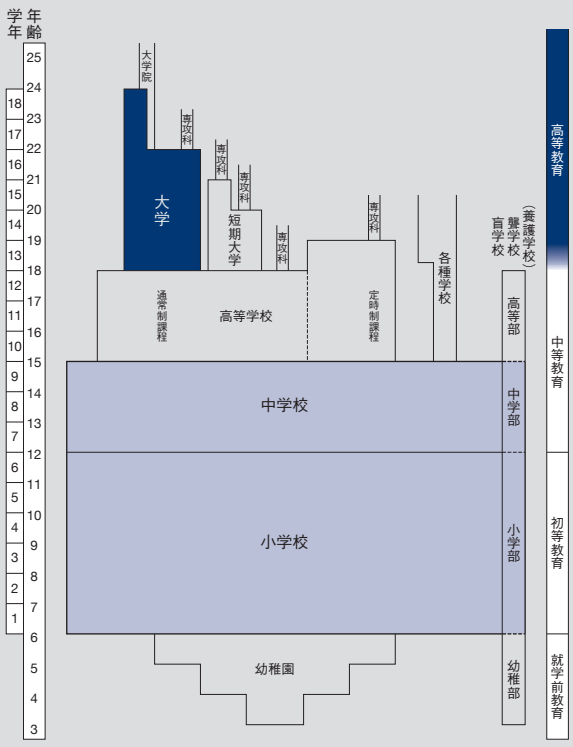
2,281人 11,318人
教員数 学生数
76,275人 1,407,000人

2,799人 13,694人
教員数 学生数
147,579人 2,701,000人

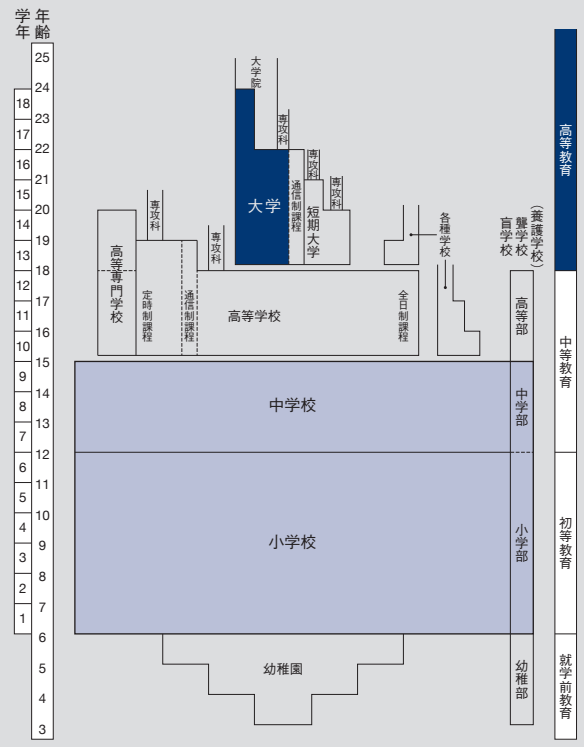
2,701人 12,956人
教員数 学生数
190,448人 2,625,688人



1919-1943
(大正8-昭和18)



1949-1971
(昭和24-昭和46)



1972-2022
(昭和47-令和4)

150年で変化する「大学で学ぶことの意義」

2022年9月に学制150年記念式典が執り行われました。今から150年前に近代教育法令「学制」が公布され、全国を8大学区×32中学区×210小学区に分ける構想そのものは道半ばとなりましたが、大中小の学区に分けようとしたということですが、しかし抛出金や農作業の人手不足問題などから、学制に反対する声も多くあり、学制一揆なる反対運動がおこるほどだったそうです。

その後、1886年に小学校義務化、1900年授業料無償化によって小学校就学率向上が加速し、90%を越えた時期が京都帝国大学創立期と重なります。その後、1947

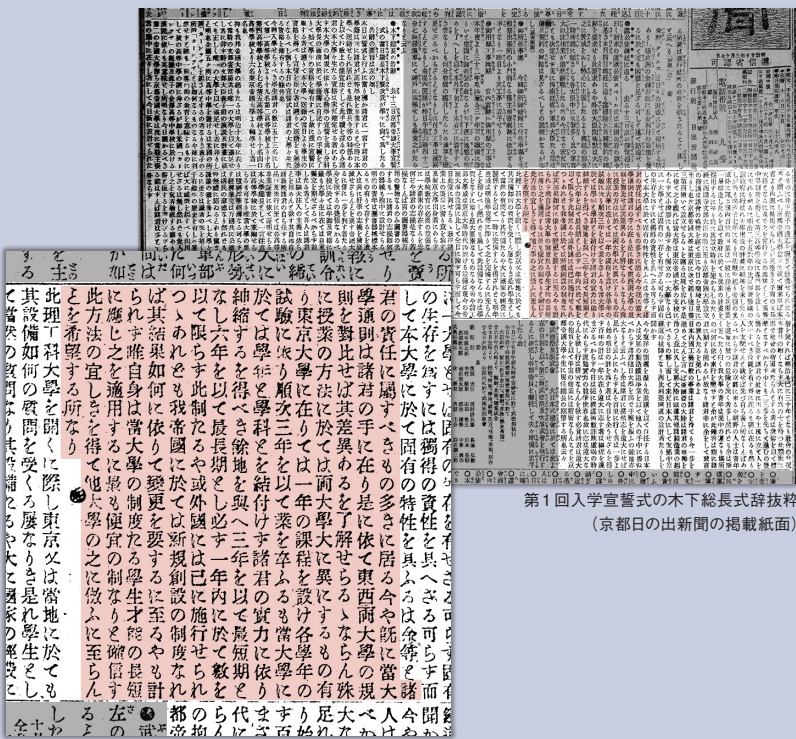
「1回生」と「1年生」

皆さんは大学で学年のことを何と呼んでおられましたか？
関西では何回生、それ以外の多くの地域では何年生と呼ばれることが多いそうですが、その「〇〇回生」という呼称の発祥が実は京都帝国大学なのだそうです。これは第1回京都帝国大学入学宣誓式で、初代総長木下広次自身が辞で述べています。東京帝国大学では学年ごとに履修科目が決まる「学年制」で、しっかりと試験にパスしないと次の学年に進級できませんでした。他方、京都帝国大学ではドイツ流の「科目制」を導入、卒業までに一定の科目をどの順に履修するかも本人が自由に決めることが

年には小学校6年間と中学校3年間で義務教育、2021年には高等学校進学率98.9%など、初中等教育の変化が否応なく高等教育の位置づけに变革を迫ります。諸外国では、高等学校まで義務教育の国もありますし、大学授業料が無償の国もあります。

いずれにせよ、日本に東京帝国大学1校しかなかった時代、その長男が背負う期待と責任に比べて、2校目の帝国大学として生まれた次男坊はむしろどのようにその独自性を見いだすべきか、アイデンティティの確立が喫緊の課題であつたようです。

できたため、在籍年数を表す呼称が使われました。そのため、2年在籍すれば2回生、3年在籍すれば3回生と自動的にあがっていくため、実質的に留年という考え方がなくなります。もちろん必要な単位がそろわないと卒業できないことは変わりがないため、4年で卒業できない場合は5回生、6回生と在籍年が積みあがり、最大8回生まで在籍できました(創立当初は最長6年まで)。木下広次は「学生才能の長短に応じ之を適用するに最も便宜の制なり」と説き、「他大学の之に倣ふに至らんことを希望する所なり」と括しています。



第1回入学宣誓式の木下総長式辞抜粋
(京都日の出新聞の掲載紙面)

H3[パネル]

京都大学の基幹講座

何を学び何を研究するのか

京都大学に入学した学生や大学院生は、何を学び、何を研究するのか。あまりにも膨大で多様、その学術研究分野の全貌を把握することは難しい。しかし、ここでは各学部や各研究科が設置している基幹講座名に注目することで、学びや研究の内容、その多様さを伺うことができる。

[illegible]

京都大学の基幹講座

何を学び何を研究するのか

京都大学に入学した学生や大学院生は、何を学び、何を研究するのか。あまりにも膨大で多様、その学術研究分野の全貌を把握することは難しい。しかし、ここでは各学部や各研究科が設置している基幹講座名に注目することで、学びや研究の内容、その多様さを伺うことができる。

学部			大学院		
	学科	学科目等 注)改組により、学年進行完了後廃止される旧専攻等については、記載していない		学科	◎印：寄附講座 ◆印：基幹協力関係講座 △印：流動分野 ※印：共同利用・共同研究拠点 注)改組により、学年進行完了後廃止される旧専攻等については、記載していない
総合人間学部	総合人間学科	人間科学系, 認知情報学系, 国際文学系, 文化環境学系, 自然科学系	文学研究科	文献文化学	東洋文献文化学, 西洋文献文化学
文学部	人文学科	哲学基礎文化学, 東洋文化学, 西洋文化学, 歴史基礎文化学, 行動・環境文化学, 基礎現代文化学		思想文化学	思想文化学
教育学部	教育科学科	現代教育基礎学, 教育心理学, 関連教育システム論		歴史文化学	歴史文化学
法学部		基礎法学, 公法, 民刑事法, 政治学		行動文化学	行動文化学
経済学部	経済経営学科	理論・情報, 経済史・思想史, 財政・金融, 産業・労働, 国際経済, 経営, 会計		現代文化学	現代文化学
理学部	理学科	数学, 物理学・宇宙物理学, 地球惑星科学, 化学, 生物科学		京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境(専攻共通)	文化越境 総合文化学
医学部	医学科	分子生物学, 細胞学・組織学, 発生学・遺伝学, 人体構造機能学, 臨床入門医学, 環境・社会医学, 内科学, 外科学, 眼科学, 婦人科学・産科学, 小児科学, 皮膚科学, 形成外科学, 泌尿器科学, 耳鼻咽喉科学, 整形外科学, 精神医学, 放射線医学・核医学, 麻酔学, 臨床神経学, 臨床検査医学, 口腔外科学		附属施設等：文化遺産学・人文知連携センター	
	人間健康科学科	先端看護科学, 先端リハビリテーション科学, 総合医療科学	教育学研究科	教育学環	教育・人間科学, 教育認知心理学, 臨床心理学, 教育社会学, 連携教育学
	附属施設等：病院			附属施設等：心理教育相談室, 臨床教育実践研究センター	
薬学部	薬科学科	創薬科学	法学研究科	法政理論	法史学, 法理論, 外国法, 公法, 国際関係法, 民事法, 企業関係法, 社会法, 刑事法, 政治史, 政治行政分析, 公共政策
	薬学科	医療薬科学		法曹養成	法理論系, 公法系, 民事法系, 刑事法系, 法実務系
工学部	地球工学科	土木工学, 環境工学, 資源工学		附属施設等：法政策共同研究センター	
	建築学科	建築学	経済学研究科	経済学	経済理論, 統計・情報分析, 歴史・思想分析, 比較制度・政策, 金融・財政, 市場動態分析, 現代経済学, 国際経営・経済分析, 経営管理・戦略, 市場会計分析, 事業創成, ファイナンス工学, ビジネス科学
	物理工学科	機械システム学, 材料科学, エネルギー応用工学, 原子核工学, 宇宙基礎工学		附属施設等：プロジェクトセンター, 東アジア経済研究センター	
	電気電子工学科	電気電子工学	理学研究科	数学・数理解析	相関数理, 表現論代数構造論, 多様体論, 解析学, 基礎数理, アクチュアリーサイエンス客員
	情報学科	計算機科学, 数理工学		物理学・宇宙物理学	相関重力基礎論, 物性基礎論, 非線形物理学, 物質物理学, 量子光学, 物質・時空基礎論, 粒子物理学, 核物理学, 宇宙放射学, 宇宙物理学, 宇宙構造学
	工業化学科	創成化学, 先端化学, 化学プロセス工学		地球惑星科学	相関地球惑星科学, 固体地球物理学, 水圏地球物理学, 大気圏物理学, 太陽惑星系電磁気学, 地球テクニクス, 地球物質科学, 地球生物圏史
農学部	資源生物科学科	資源生物科学		化学	相関化学, 理論化学, 物理化学, 物性化学, 無機化学, 有機化学, 生物化学
	応用生命科学科	応用生命科学		生物科学	相関動植物共生学, 自然史学, 動物科学, 人類学, 分子植物科学, 進化植物科学, 情報分子細胞学, 機能統合学, 高次情報形成学
	地域環境工学科	地域環境工学		附属施設等：天文台[花山天文台, 飛騨天文台, 岡山天文台], 地磁気世界資料解析センター, 地球熱学研究施設[本部, 火山研究センター], サイエンス連携探索センター, 植物園	
	食料・環境経済学科	食料・環境経済学	医学研究科	医学	生体情報科学, 生体構造医学, 生体制御医学, 腫瘍生物学, 基礎病態学, 感染・免疫学, 法医学, 内科学, 皮膚生命科学, 発生発達医学, 放射線医学, 臨床病態解析学, 外科学, 侵襲反応制御医学, 器官外科学, 感覚運動系外科学, 分子生体統御学, 遺伝医学, 高次脳科学, 脳病態生理学, ◎呼吸管理睡眠制御学, ◎地域医療システム学, ◎運動器機能再建学, ◎代謝制御学, ◎創薬医学, ◎リウマチ性疾患先進医療学, ◎臨床情報腫瘍学講座, ◎脳機能総合研究センター神経機能回復・再生医学講座
	森林科学科	森林科学		医科学	
	食品生物科学科	食品生物科学		社会健康医学系	健康解析学, 健康管理学, 健康要因学, 国際保健学
				人間健康科学系	先端基盤看護科学, 先端中核看護科学, 先端広域看護科学, 先端理学療法学, 先端作業療法学, 基礎系医療科学, 臨床系医療科学, 理工系医療科学, 近未来システム・技術創造
				京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携(専攻共通)	先端・国際医学
				附属施設等：動物実験施設, 先天異常標本解析センター, 総合解剖センター, 脳機能総合研究センター, ゲノム医学センター, 医学教育・国際化推進センター, がん免疫総合研究センター	

薬学研究科	薬科学	薬品創製化学, 薬品機能統御学, 薬品製剤設計学, 生体分子薬学, 生体機能薬学, 生体情報薬学, ◎ナノバイオ医薬創成科学
	薬学	薬品動態医療薬学, 病態機能解析学
	医薬創成情報科学	医薬創成情報科学
	附属施設等：薬用植物園, 統合薬学教育開発センター	
工学研究科	社会基盤工学	応用力学, 資源工学, 構造工学, 水工学, 地盤力学, 空間情報学, 都市基盤設計学, ◎災害リスクマネジメント工学 (JR 西日本)
	都市社会工学	都市社会計画学, 交通マネジメント工学, 地震ライフライン工学, 構造物マネジメント工学, 河川流域マネジメント工学, ジオマネジメント工学, 都市基盤システム工学, 地球資源学
	都市環境工学	環境デザイン工学, 環境システム工学, 環境衛生学
	建築学	建築保全再生学, 人間生活環境学, 建築史学, 建築構法学, 建築環境計画学, 建築設計学, 建築構造学, 建築生産工学, 都市空間工学, 居住空間学, 環境材料科学, 環境構成学
	機械理工学	機械システム創成学, 生産システム工学, 機械材料力学, 流体力工学, 物性工学, 機械力学, バイオエンジニアリング
	マイクロエンジニアリング	構造材料強度学, ナノシステム創成工学, ナノサイエンス, マイクロシステム創成, ◎デジタル設計生産学
	航空宇宙工学	航空宇宙力学, 航空宇宙基礎工学, 航空宇宙システム工学
	原子核工学	量子ビーム科学, 量子物質工学, 核エネルギー工学
	材料工学	材料設計工学, 材料プロセス工学, 先端材料物性学, 材料物性学, 先端材料機能学, 材料機能学, ◎非鉄製錬学 (三菱マテリアル)
	電気工学	先端電気システム論, システム基礎論, 生体医工学, 電磁工学, ◎優しい地球環境を実現する先端電気機器工学 (日本電産)
	電子工学	集積機能工学, 電子物理工学, 電子物性工学, 量子機能工学
	材料化学	機能材料設計学, 無機材料化学, 有機材料化学, 高分子材料化学, ナノマテリアル
	物質エネルギー化学	エネルギー変換化学, 基礎エネルギー化学, 基礎物質化学, 触媒科学
	分子工学	生体分子機能化学, 分子理論化学, 量子機能化学, 応用反応化学
	高分子化学	先端機能高分子, 高分子合成, 高分子物性
	合成・生物化学	有機設計学, 合成化学, 生物化学
	化学工学	環境プロセス工学, 化学工学基礎, 化学システム工学
	附属施設等：光・電子理工学教育研究センター, 流域圏総合環境質研究センター, 量子理工学 教育研究センター, 桂インテックセンター, 情報センター, 環境安全衛生センター, 工学基盤教育研究センター, 交通政策研究ユニット, 学術研究支援センター, ミャンマー工学教育拡充支援ユニット	
農学研究科	農学	作物科学, 園芸科学, 耕地生態科学, 品質科学
	森林科学	森林管理学, 森林生産学, 緑地環境保全学, 生物材料工学, 生物材料機能学
	応用生命科学	応用生化学, 分子細胞科学, 応用微生物学, 生物機能化学, ◎産業微生物学
	応用生物科学	資源植物科学, 植物保護科学, 動物遺伝増殖学, 動物機能開発学, 海洋生物資源学, 海洋微生物学, 海洋生物生産学
	地域環境科学	比較農業論, 生物環境科学, 生産生態科学, 地域環境開発工学, 地域環境管理工学, 生物生産工学, ◎糸状菌・環境インターフェイス工学
	生物資源経済学	農企業経営情報学, 国際農林経済学, 比較農史農学論
	食品生物科学	食品生命科学, 食品健康科学, 食品生産工学
	附属施設等：農場 [本場, 京都農場], 牧場	
人間・環境学研究科	共生人間学	人間社会論, 思想文化論, 認知・行動科学, 数理科学, 言語科学, 外国語教育論
	共生文明学	現代文明論, 比較文明論, 文化・地域環境論, 歴史文化社会論
	相關環境学	共生社会環境論, 分子・生命環境論, 自然環境動態論, 物質相關論

エネルギー科学研究科	エネルギー社会・環境科学		社会エネルギー科学, エネルギー社会環境学
	エネルギー基礎科学		エネルギー反応学, エネルギー物理学
	エネルギー変換科学		エネルギー変換システム学, エネルギー機能設計学
	エネルギー応用科学		エネルギー材料学, 資源エネルギー学
アジア・アフリカ地域研究研究科	東南アジア地域研究		生態環境論, 地域変動論, ◆総合地域論
	アフリカ地域研究		生業生態論, 社会共生論, アフリカ潜在力
	グローバル地域研究		平和共生・生存基盤論, イスラム世界論, 南アジア・インド洋世界論
情報学研究科	知能情報学		脳認知科学, 認知システム, 知能メディア
	社会情報学		社会情報モデル, 社会情報ネットワーク, 生物圏情報学
	先端数理科学		応用解析学, 非線形物理学, 応用数理学
	数理工学		応用数学, システム数理, 数理物理学
	システム科学		人間機械共生系, システム構成論, システム情報論
	通信情報システム		コンピュータ工学, 通信システム工学, 集積システム工学
生命科学研究科	統合生命科学		遺伝機構学, 多細胞体構築学, 細胞全能性発現学, 応用生物機構学, 環境応答制御学
	高次生命科学		認知情報学, 体制統御学, 高次応答制御学, 高次生体統御学, 生命科学教育学・遺伝学, システム生物学, ゲノム生物学
	先端数理科学		応用解析学, 非線形物理学, 応用数理学
	附属施設等: ※放射線生物研究センター, 生命動態研究センター		
総合生存学館	総合生存学		総合生存学
地球環境学堂・地球環境学舎	学堂	地球益学廊	地球環境政策論, △環境経済論, 地球益経済論, △持続的農村開発論, △環境健康科学論, △歴史地理文化論, 環境マーケティング論, △環境・技術存在論, 環境教育論
		地球親和技術学廊	環境調和型産業論, 社会基盤親和技術論, 人間環境設計論, △生物多様性保全論, △景観生態保全論, △元素材料化学論
		資源循環学廊	地域資源計画論, △都市基盤エンジニアリング論, △大気環境化学論, △生産環境微生物学論, △陸域生態系管理論, 統合環境学設計論
	学舎	地球環境学	
		環境マネジメント	
	附属施設等: 三才学林		
	公共政策連携研究部・公共政策教育部	研究部	共政策第一, 公共政策第二
	教育部	公共政策	
経営管理研究部・経営管理教育部	研究部	経営管理, 都市・地域マネジメント(客員), 国土マネジメント(客員), プロジェクトファイナンス(客員), ◎企業金融と資本市場(みずほ証券), ◎道路アセットマネジメント政策(橋梁調査会), ◎光亜興産官民協働まちづくり実践(川村光壽), ◎港湾物流高度化, ◎京都ものづくりバレー構想の研究と推進(JOHNAN), ◎管理会計(経営会計専門家協会), ◎グローバル社会起業, ◎シスメックスー企業と投資家ー, ◎国際メガ・インフラマネジメント政策(八千代エンジニアリング), ◎インテグレイティド・ホスピタリティ(グリーンハウス), ◎ブルータス・コンサルティングーバリュエーション(企業価値評価と株式価値評価)ー, ◎プライベート・エクイティ(ボラリス・キャピタル・グループ), ◎アート・コミュニケーションデザインと組織経営	
	教育部	経営科学	
		経営管理	
附属施設等: 経営研究センター			

H3 大学案内冊子「知と自由への誘い」

令和4(2022)年 発行

京都大学教育推進・学生支援部入試企画課 提供

学部入学希望者(受験生)向けに2002年より刊行されている大学案内冊子。各学部での学びの紹介や学部に所属する教員それぞれの研究テーマ、大学の特色などが紹介されている。2014年度以降の冊子は大学WebサイトにPDFファイルで公開されており、閲覧が可能である。

参考文献など

[1] 大学案内冊子「知と自由への誘い」

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/about/admission>



[1]

H4 [パネル]



京都大学の組織

社会の変化に呼応する体制

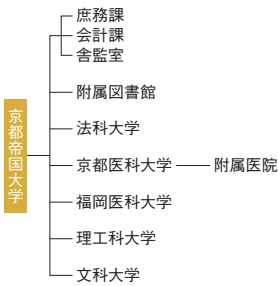
創立当初、4つの分科大学からはじまった京都大学だが、研究教育の内容や対象の拡充に呼応するかたちで、附置研究施設などを設置し、さらには国立学校設置法(1949年)や大学院重点整備政策(1990年代)などを受けて、その体制を変化、拡充させてきた変遷がある。現在の京都大学は70を越える学内組織(部局)からなり、事務組織や12の附置研究所をはじめ、教育研究を支える設備や施設の共同利用施設を設置するなど、さまざまな組織から成り立っている。

参考：[1906年]『京都帝国大学一覧 従明治三十九年 至明治四十年』(p.316～321) |

[1906年、1925年、1950年、1968年]『京都大学百年史 資料編3』京都大学百年史編集委員会(第4編：一覧・統計 p.4～22、p.126～127) |

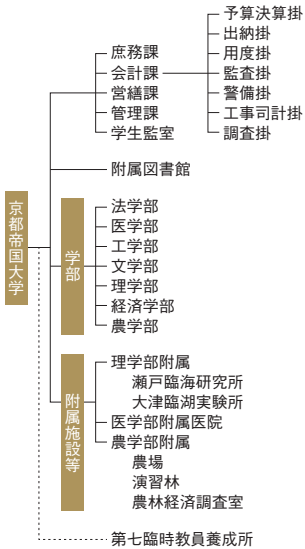
[1968年]『京都大学概覧 昭和43年度』 | [1997年]『京都大学概要 平成9年度』 | [2021年]『京都大学概要 2021』

1906 (明治 39)



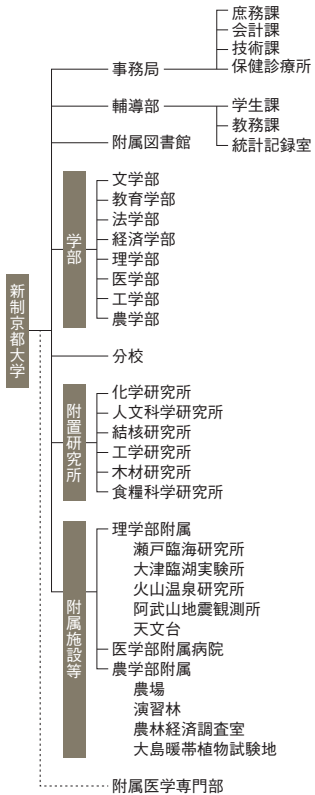
※事務組織は1897(明治30)年9月3日現在

1925 (大正 14)

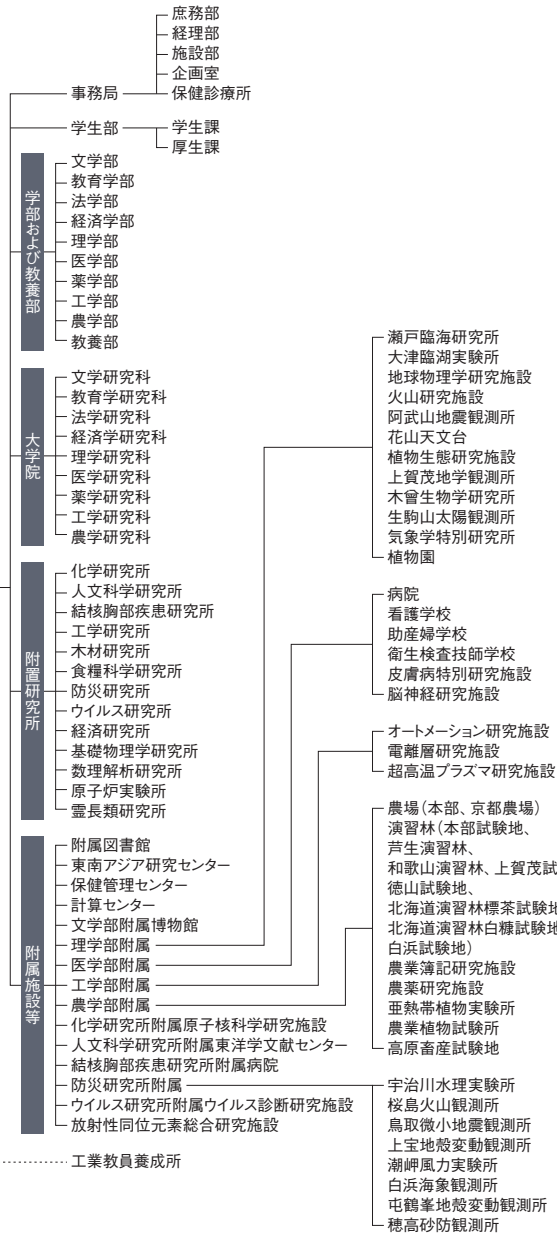


※事務組織は1923(大正12)年7月7日現在

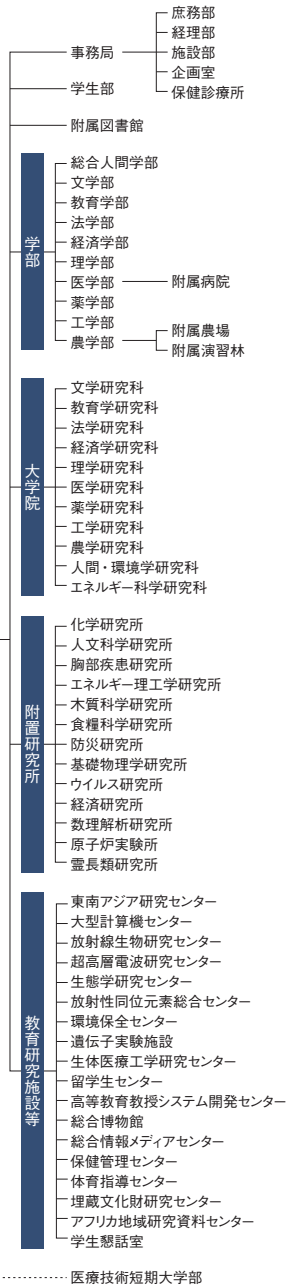
1950 (昭和 25)

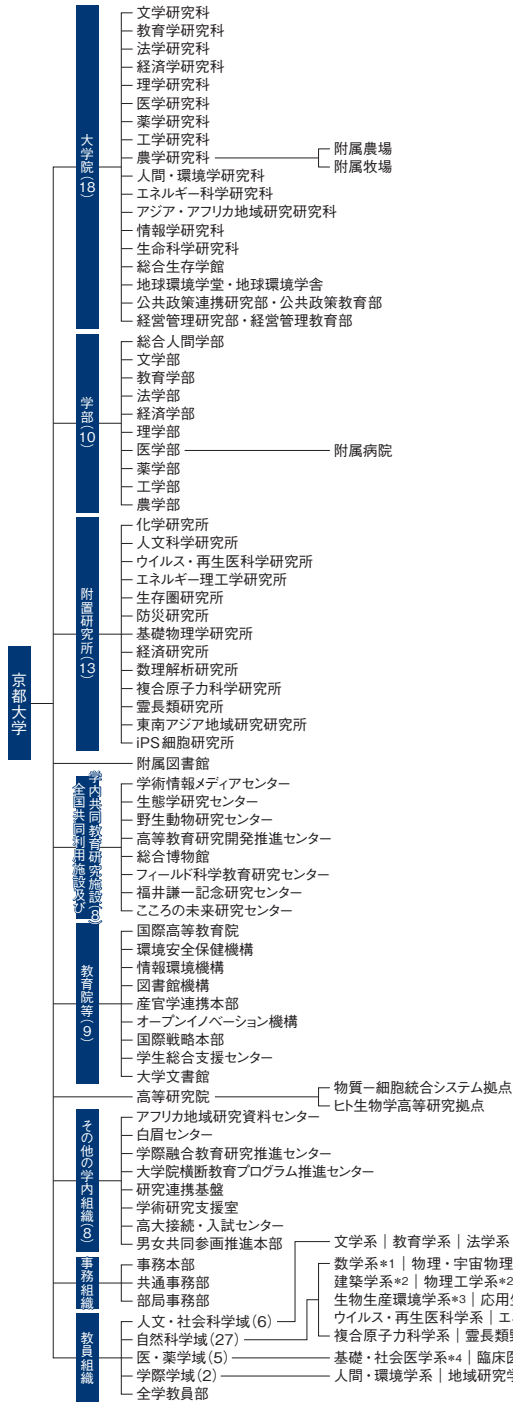


1968 (昭和 43)



1997 (平成 9)





幻の5つ目の分科大学

京都大学は明治30(1897)年6月18日、理工科大学、法科大学、医科大学、文科大学の4つの分科大学からはじまります。この分科大学が後に学部名称変更されて、今の理学部、法学部、といった名前につながります。そのためか、入学の許可というのは各分科大学長(現学部長)の所掌であり、入学宣誓式においても各分科大学長の前で宣誓簿に署名をしてはじめて入学が許可されたそうです。そこで企画展示においても、四分科大学と附属図書館、附属病院の6つの組織で京都大学が始まったと紹介しようとしますと、福岡医科大学なる耳慣れぬ名前を発見します。これは、京都帝国大学の後に東北と九州にも帝国大学をつくらうという動きがあったものの、

工業教員養成所

展示室には並べられなかったのですが、紹介しなかった資料の一つがウィルソン霧箱です。これは、霧を発生させて放射線の飛跡を可視化する装置ですが、展示しなかった理由は装置そのものというよりは「京都大学工業教員養成所」という銘板です。京都大学工業教員養成所とは、1961年に宇治キャンパスに臨時措置法で設置された期間限定の教育機関のことです。高度経済成長期に不足した工業化人材養成のため、高等学校の工業科目の教員養成を目的として京都大学を含む国立9大学に付置されました。北大、東北大、東工大、横国、名工大、阪大、広島大、九大、そして京大。カリキュラムは、高い専門知識を3年という短期間に身につけさせることであったため、1週間の授業時間数は44時間近くあり、課外活動もほとんどできない詰め込みカリキュラムである

ことを批判し反対の署名が集められたほどだったそうです。1966年度(第6期生)を最後に学生募集を停止し、9年間でその役目を静かに終えます。



早くに九州に医科大学が欲しいとなったようです。しかし当時の帝国大学令では単科大学をつくれなかったため、京都帝国大学にひっつけるという裏技?のようなもので京都帝国大学福岡医科大学が明治36(1903)年に設置され、明治44(1910)年に分離して九州帝国大学医科大学に転じます。結果として、九州大学よりも九州大学医学部の方が設立年が古いというミラクルが生じます。いろいろ工夫の余地があったのですね。



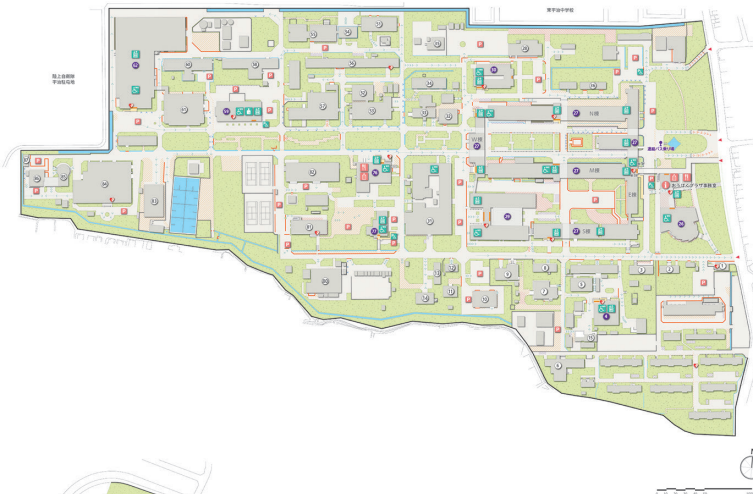
「京都大学工業教員養成所」と書かれた銘板

※番号やマークの色がグレーの施設・設備を車椅子で利用するには介助が必要です。(22年3月現在)
※この地図は2022年3月現在の情報です。

宇治キャンパス

宇治キャンパス

- ① 宇治校舎
- ② 社会福祉学系(社会福祉学)
- ③ 経済学系(経済学)
- ④ 水産資源学系(水産学)
- ⑤ 食品衛生学系(食品衛生学)
- ⑥ 国際文化学系(国際文化学)
- ⑦ 農学(農学)
- ⑧ 農学(農学)
- ⑨ 農学(農学)
- ⑩ 農学(農学)
- ⑪ 農学(農学)
- ⑫ 農学(農学)
- ⑬ 農学(農学)
- ⑭ 農学(農学)
- ⑮ 農学(農学)
- ⑯ 農学(農学)
- ⑰ 農学(農学)
- ⑱ 農学(農学)
- ⑲ 農学(農学)
- ⑳ 農学(農学)
- ㉑ 農学(農学)
- ㉒ 農学(農学)
- ㉓ 農学(農学)
- ㉔ 農学(農学)
- ㉕ 農学(農学)
- ㉖ 農学(農学)
- ㉗ 農学(農学)
- ㉘ 農学(農学)
- ㉙ 農学(農学)
- ㉚ 農学(農学)
- ㉛ 農学(農学)
- ㉜ 農学(農学)
- ㉝ 農学(農学)
- ㉞ 農学(農学)
- ㉟ 農学(農学)
- ㊱ 農学(農学)
- ㊲ 農学(農学)
- ㊳ 農学(農学)
- ㊴ 農学(農学)
- ㊵ 農学(農学)
- ㊶ 農学(農学)
- ㊷ 農学(農学)
- ㊸ 農学(農学)
- ㊹ 農学(農学)
- ㊺ 農学(農学)
- ㊻ 農学(農学)
- ㊼ 農学(農学)
- ㊽ 農学(農学)
- ㊾ 農学(農学)
- ㊿ 農学(農学)



桂キャンパス

Cクラスター

- ① Cクラスター-情報学
- ② Cクラスター-経済学
- ③ Cクラスター-社会学
- ④ Cクラスター-法学
- ⑤ Cクラスター-文学
- ⑥ Cクラスター-芸術学
- ⑦ Cクラスター-工学
- ⑧ Cクラスター-農学
- ⑨ Cクラスター-医学
- ⑩ Cクラスター-歯学
- ⑪ Cクラスター-薬学
- ⑫ Cクラスター-獣医学
- ⑬ Cクラスター-看護学
- ⑭ Cクラスター-理学
- ⑮ Cクラスター-工学
- ⑯ Cクラスター-農学
- ⑰ Cクラスター-医学
- ⑱ Cクラスター-歯学
- ⑲ Cクラスター-薬学
- ⑳ Cクラスター-獣医学
- ㉑ Cクラスター-看護学
- ㉒ Cクラスター-理学
- ㉓ Cクラスター-工学
- ㉔ Cクラスター-農学
- ㉕ Cクラスター-医学
- ㉖ Cクラスター-歯学
- ㉗ Cクラスター-薬学
- ㉘ Cクラスター-獣医学
- ㉙ Cクラスター-看護学
- ㉚ Cクラスター-理学
- ㉛ Cクラスター-工学
- ㉜ Cクラスター-農学
- ㉝ Cクラスター-医学
- ㉞ Cクラスター-歯学
- ㉟ Cクラスター-薬学
- ㊱ Cクラスター-獣医学
- ㊲ Cクラスター-看護学
- ㊳ Cクラスター-理学
- ㊴ Cクラスター-工学
- ㊵ Cクラスター-農学
- ㊶ Cクラスター-医学
- ㊷ Cクラスター-歯学
- ㊸ Cクラスター-薬学
- ㊹ Cクラスター-獣医学
- ㊺ Cクラスター-看護学
- ㊻ Cクラスター-理学
- ㊼ Cクラスター-工学
- ㊽ Cクラスター-農学
- ㊾ Cクラスター-医学
- ㊿ Cクラスター-歯学

Bクラスター

- ① 総合研究センター(総合研究センター)
- ② 総合研究センター(総合研究センター)
- ③ 総合研究センター(総合研究センター)
- ④ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑤ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑥ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑦ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑧ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑨ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑩ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑪ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑫ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑬ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑭ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑮ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑯ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑰ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑱ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑲ 総合研究センター(総合研究センター)
- ⑳ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉑ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉒ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉓ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉔ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉕ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉖ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉗ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉘ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉙ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉚ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉛ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉜ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉝ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉞ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㉟ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊱ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊲ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊳ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊴ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊵ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊶ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊷ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊸ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊹ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊺ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊻ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊼ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊽ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊾ 総合研究センター(総合研究センター)
- ㊿ 総合研究センター(総合研究センター)

Aクラスター

- ① A1棟(工学部)
- ② A2棟(工学部)
- ③ A3棟(工学部)
- ④ A4棟(工学部)
- ⑤ A5棟(工学部)
- ⑥ A6棟(工学部)
- ⑦ A7棟(工学部)
- ⑧ A8棟(工学部)
- ⑨ A9棟(工学部)
- ⑩ A10棟(工学部)
- ⑪ A11棟(工学部)
- ⑫ A12棟(工学部)
- ⑬ A13棟(工学部)
- ⑭ A14棟(工学部)
- ⑮ A15棟(工学部)
- ⑯ A16棟(工学部)
- ⑰ A17棟(工学部)
- ⑱ A18棟(工学部)
- ⑲ A19棟(工学部)
- ⑳ A20棟(工学部)
- ㉑ A21棟(工学部)
- ㉒ A22棟(工学部)
- ㉓ A23棟(工学部)
- ㉔ A24棟(工学部)
- ㉕ A25棟(工学部)
- ㉖ A26棟(工学部)
- ㉗ A27棟(工学部)
- ㉘ A28棟(工学部)
- ㉙ A29棟(工学部)
- ㉚ A30棟(工学部)
- ㉛ A31棟(工学部)
- ㉜ A32棟(工学部)
- ㉝ A33棟(工学部)
- ㉞ A34棟(工学部)
- ㉟ A35棟(工学部)
- ㊱ A36棟(工学部)
- ㊲ A37棟(工学部)
- ㊳ A38棟(工学部)
- ㊴ A39棟(工学部)
- ㊵ A40棟(工学部)
- ㊶ A41棟(工学部)
- ㊷ A42棟(工学部)
- ㊸ A43棟(工学部)
- ㊹ A44棟(工学部)
- ㊺ A45棟(工学部)
- ㊻ A46棟(工学部)
- ㊼ A47棟(工学部)
- ㊽ A48棟(工学部)
- ㊾ A49棟(工学部)
- ㊿ A50棟(工学部)



H6-1 京都大学学生総合支援機構障害学生支援部門が発行する学生サポーターの手引き

令和4(2022)年 発行

京都大学学生総合支援機構障害学生支援部門 蔵

令和4(2022)年の日本学生支援機構の報告によれば、全国の大学生約323万人に対して障害学生は約41000人が在籍している。京都大学では平成19(2007)年の重点アクションプランを基に、平成20(2008)年身体障害学生相談室を発足させた(現在の学生総合支援機構障害学生支援部門)。障害学生支援の方法も京都大学らしく、たとえば聴覚障害学生に対するノートテイクで、学生が万一授業中に居眠りなどしている間は主体的な学びとは言えず、支援の手を休めるなど学びや研究の主体性こそを大切に作る姿勢が徹底されている。

参考文献など

[1] 障害のある学生の修学支援に関する実態調査 | JASSO

https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_shogai_koudairenkei/_icsFiles/afiedfile/2021/03/18/jasso2211.pdf



[1]

H6-2 京都大学フリーアクセスマップ

平成21(2009)年 制作

京都大学学生総合支援機構障害学生支援部門、株式会社GK京都 制作

吉田・宇治・桂の3キャンパスマップは、平成21(2009)年に身体障害学生相談室(当時)が発行した京都大学フリーアクセスマップ最新版を拡大したもの。大学教職員や関係者、制作会社のデザイナーらで現地調査を行い、車椅子利用者など移動困難な利用者目線で作成した。車いす利用者にスロープを紹介するのではなく、目的地までのバリア状態をそのまま示すに留め、利用者自らがスキルに合わせて主体的に進路選択できる余地を残すところにこだわった。洗練されたデザインで、美しくかつ誰にとっても見やすいマップとすることで、バリアフリーよりユニバーサルな環境づくりへ意識改革を促す企図で作成された。

参考文献など

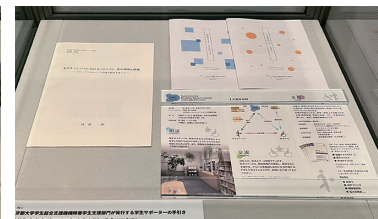
[1] 本学キャンパスにおけるバリアフリー化の現状と課題 -フリーアクセスマップの取り組みを通して-

村田, 淳, 京都大学学生総合支援センター紀要, no.44, pp.39-47, 2015

<http://hdl.handle.net/2433/197464>



[1]



主体性を大切にする障害学生支援

京都大学は吉田・宇治・桂の3キャンパスがあります。展示では2009年に身体障害学生相談室(当時)が発行した京都大学フリーアクセスマップ最新版を拡大して展示しました。このマップは、車椅子利用者など移動困難な利用者目線で作成されたものですが、単にスロープなどを紹介するのではなく、目的地までのバリア状態をそのまま示すに留め、利用者自らがスキルに合わせて主体的に進路選択できる余地を残すところにこだわりのあります。このマップ以外にも、このチームの支援ポリシーが興味深い。たとえば聴覚障害学生に対するノートテイクは、もし支援対象の学生さんが万一授業中にウト

ウト居眠りなどして授業を明らかに聞いていない間は、これは主体的な学びとは言えないということで、支援の手を休め、代わりにノートをとってくれません。なぜなら、学生本人が学んでいない時間だから。逆に正課外の学びの場について支援対象学生が学びたいと相談があった場合には、オフィシャルには支援しにくくても、全力でその学びに伴走してくれる頼もしい支援チームなのです。障害学生支援においても、学びや研究の主体性こそを大切に作る姿勢が徹底されているところがとても素敵です。

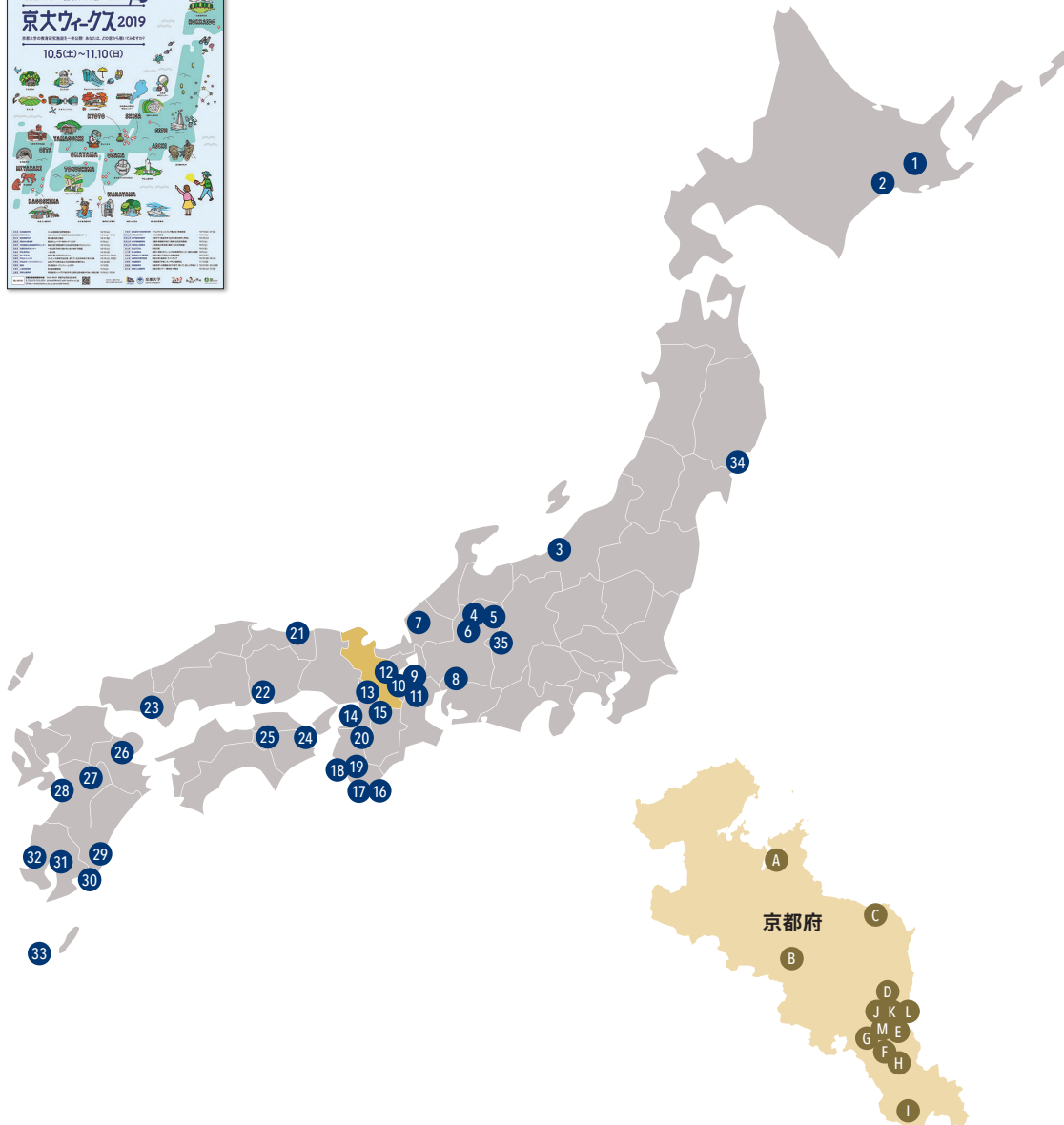


遠隔地・附属研究施設と活動

京都大学は、全国各地にそれぞれの地域の協力のもと、多数の研究所やセンター、附属研究施設を展開している。これらの施設は「遠隔地」と呼ばれ、日常的に教職員、大学院生が駐在し研究活動が行われているほか、学部生の教養、基礎的教育(例えば少人数教育科目群ILASセミナー)が実施されるなど、本学の多様でユニークな教育研究を支えている。遠隔地は、市民向け公開講座や施設公開等を通じて、社会に開かれた「京大の窓」としても機能しており、毎年、全国の遠隔地が連続してさまざまな趣向の企画を開催する「京大ウィークス」の期間には、多くの市民が施設を訪れている。

主に1回生を対象として開講される少人数ゼミナール形式の授業。各学部・研究科・研究所・センター等の教員が、Face to Faceの親密な人間関係の中で、様々なテーマを扱う。

全国各地に展開する京大の教育研究施設を、一定期間に集中して一般公開する企画。施設見学会や講演会、体験実験、自然観察会など、各施設で様々な催しが行われる。



(理)… 理学研究科 (農)… 農学研究科 (防)… 防災研究所 (野)… 野生動物研究センター (工)… 工学研究科 (生)… 生存圏研究所
(フ)… フィールド科学教育研究センター (人)… 人文科学研究所

ILAS … ILASセミナー授業で利用のある施設 〳〵 … 京大ウィークスで一般公開のある施設

- ① 北海道研究林[標茶区](フ) ILAS 〳〵
- ② 北海道研究林[白糠区](フ)
- ③ 流域災害研究センター大湊波浪観測所(防)
- ④ 地震予知研究センター上宝観測所(防)
- ⑤ 流域災害研究センター穂高砂防観測所(防)
- ⑥ 飛騨天文台(理) 〳〵
- ⑦ 地震予知研究センター北陸観測所(防)
- ⑧ ヒト行動進化研究センター他 ILAS 〳〵
- ⑨ 生態学研究センター 〳〵
- ⑩ 流域圏総合環境質研究センター(工) 〳〵
- ⑪ 信楽MU観測所(生) 〳〵
- ⑫ 地震予知研究センター逢坂山観測所(防)
- ⑬ 地震予知研究センター阿武山観測所(防) 〳〵
- ⑭ 複合原子力科学研究所 〳〵
- ⑮ 地震予知研究センター屯鶴峯観測所(防)
- ⑯ 紀伊大島実験所(フ) ILAS
- ⑰ 流域災害研究センター潮岬風力実験所(防) 〳〵
- ⑱ 瀬戸臨海実験所(フ) ILAS 〳〵
- ⑲ 流域災害研究センター白浜海象観測所(防) ILAS
- ⑳ 和歌山研究林(フ) ILAS 〳〵
- ㉑ 地震予知研究センター鳥取観測所(防)
- ㉒ 岡山天文台(理) 〳〵
- ㉓ 徳山試験地(フ) ILAS 〳〵
- ㉔ 地震予知研究センター徳島観測所(防)
- ㉕ 斜面災害研究センター徳島地すべり観測所(防) 〳〵
- ㉖ 地球熱学研究施設本部(理) 〳〵
- ㉗ 地球熱学研究施設火山研究センター(理) 〳〵
- ㉘ 熊本サンクチュアリ(野) ILAS
- ㉙ 地震予知研究センター宮崎観測所(防) 〳〵
- ㊱ 幸島観察所(野) 〳〵
- ㊲ 火山活動研究センター桜島火山観測所(防)
- ㊳ 生活・森林圏シミュレーションフィールド(生)
- ㊴ 屋久島観察所(野)
- ㊵ 舞根森里海研究所(フ) ILAS
- ㊶ 木曽生物学研究所(理) ILAS

京都府内

- ㊷ 舞鶴水産実験所(フ) 〳〵
- ㊸ 牧場(農)
- ㊹ 芦生研究林(フ) ILAS 〳〵
- ㊺ 上賀茂試験地(フ) ILAS 〳〵
- ㊻ 花山天文台(理) ILAS 〳〵
- ㊼ 流域災害研究センター宇治川オープンラボラトリー(防) ILAS 〳〵
- ㊽ 栽培植物起源学研究室(農)
- ㊾ 宇治構内 〳〵
- ㊿ 農場(農) 〳〵
- ㊽ 北白川試験地(フ)
- ㊽ 植物園(理)
- ㊽ 東アジア人文情報学研究センター(人) ILAS
- ㊽ 東一条館 ILAS

H7-1 京大ウィークスおよび公開講座の資料

平成23(2011)年～/大正4(1915)年頃

京都大学総務部渉外課 提供

京大ウィークスは、北海道から九州まで全国に数多くある本学の教育研究施設における公開講座、施設公開等を2011年より一定期間に集中させた連動企画。施設ごとの企画はもっと歴史が古く、大正4(1915)年頃に全国の学校教員を集めた臨湖実習会のように100年以上の歴史をもつものもある。

参考文献など

[1] 京大ウィークス 2022

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/social/weeks/2022>



[1]

H7-2 琵琶湖生物資源調査団で使われたトロ箱

昭和37(1962)年頃

京大学生態学研究センター(瀬戸臨海実験所) 提供

琵琶湖生物資源調査団(BST: Biwako Survey Team)のトロ箱。主に海産物を入れる箱であるが、本資料には水質調査の丸瓶が敷き詰められていた。EやNの文字は、琵琶湖全域を格子状に区分した調査単位の一つ。BSTは1962年にはじまった大規模調査で、現在の琵琶湖大橋あたりを南北に区切るダム計画に対して、環境影響が甚大との報告で再考を迫った。理学部動物学教室とともに60名を超える調査団の中心となった大津臨湖実験所は大正3(1914)年に開所した最も古い大学附置施設の一つで、日本淡水生物学の基礎を築いた川村多実二が医科大学の助手を務めていた時期に開所に尽力した。

参考文献など

[1] 第42章: 生態学研究センター, 京都大学百年史編集委員会【部局史編3】, pp.988-1005, 1997

<http://hdl.handle.net/2433/152938>



[1]

BTSとみせかけてBST

Biwako Survey Teamの略でBST。琵琶湖生物資源調査団のトロ箱です。トロ箱というのは、海産物を入れる箱なのですが、資料の底を見ると丸いピン跡が残っているので水質調査の丸瓶が敷き詰められていたことがうかがえます。トロ箱のフタにある「N」の文字も、琵琶湖を格子状に区分したN-4、N-7などそのエリアごとの区分けを表すようです。1962年、琵琶湖にダム計画があったそうですが、現在の琵琶湖大橋あたりを南北に区切るダム計画に対して、どれほど環境影響がでるのかを調査したのが琵琶湖生物資源調査団。60名を越える大調査団でした。その調査団をリードした大津臨湖実験所の資料です。

大津臨湖実験所は大正3(1914)年に開所した最も古い大学附置施設の一つで、日本淡水生物学の基礎を築いた川村多実二が開所に尽力した施設です。淡水生物への大衆の興味を引き起こそうと、川村先生は早くも大正4(1915)年第1回臨湖実習会で全国の中等学校教員を集めます。100年以上も前にアウトリーチの原点がすでに琵琶湖畔にあったことがうかがえます。そういった場で川村先生の薫陶を受けたある先生のお孫さんが、大津臨湖実験所の流れをくむ京大学生態学センターに研究者として着任されたことがあるそうで、川村先生の後進を育てる魂がほんとうに現代につながっていたのです。



箱の底に見られる丸いピン跡。フタには「N」の文字が書かれている

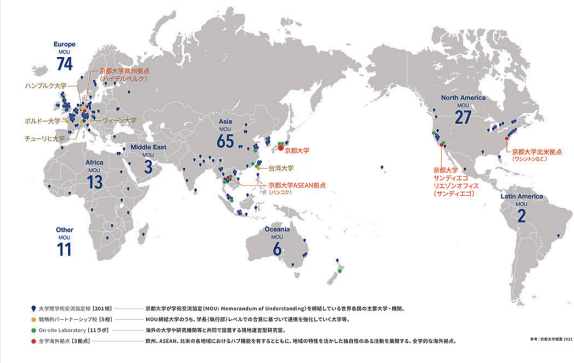


講習会の参加者と川村多実二(舟着桟橋にて)
(京大学生態学研究センター所蔵のアルバムより)



世界に開かれた京都大学 国際連携による研究教育活動

京都大学は、世界に開かれた大学として、社会に、そして地球社会の調和ある共存に貢献するという基本理念のもと、2022年現在、200を超える大学間学術交流協定を結び、5つの全学海外拠点と11の現地運営型研究室を設置している。長年の地域研究活動をもとに設置された拠点や、世界各国の主要大学・機関と連携のために設置された拠点など、経緯や機能はさまざまであるが、いずれも世界をフィールドとする研究活動の下支えや、国際競争力のある研究推進の推進、国際力豊かな人材育成活動などが行われている。



世界に開かれた京都大学

国際連携による研究教育活動

京都大学は、世界に開かれた大学として、社会に、そして地球社会の調和ある共存に貢献するという基本理念のもと、2022年現在、200を超える大学間学術交流協定を結び、5つの全学海外拠点と11の現地運営型研究室を設置している。長年の地域研究活動をもとに設置された拠点や、世界各国の主要大学・機関と連携のために設置された拠点など、経緯や機能はさまざまであるが、いずれも世界をフィールドとする研究活動の下支えや、国際競争力のある研究推進の推進、国際力豊かな人材育成活動などが行われている。



- 大学間学術交流協定校 [201校]
- 戦略的パートナーシップ校 [5校]
- On-site Laboratory [11ラボ]
- 全学海外拠点 [3拠点]

京都大学が学術交流協定 (MOU: Memorandum of Understanding) を締結している世界各国の主要大学・機関。

MOU締結大学のうち、学長(執行部)レベルでの合意に基づいて連携を強化していく大学等。

海外の大学や研究機関等と共同で設置する現地運営型研究室。

欧州、ASEAN、北米の各地域におけるハブ機能を有するとともに、地域の特性を活かした独自性のある活動を展開する、全学的な海外拠点。